

放置森林対策行動計画(前期)進捗状況(具体的取組)

	数値目標		H19実績	H20実績	H21実績	H22実績	H23実績	H24実績	達成状況	今後の方針
	項目	指標								
13	府内産木材認証制度	進捗状況	森林組合が主体となって産地証明システム設計及びプログラムを開発	システムの試験運用	システム及びプログラムの試験運用により認証材を出荷(49.2m ³)	システム及びプログラムの試験運用により認証材を出荷(245.2m ³)	システム及びプログラムの試験運用により認証材を出荷(153.2m ³)	大阪府主体の産地認証制度を立ち上げ(101.6m ³)	<ul style="list-style-type: none"> ・森林組合による認証システムは、流通履歴の管理が難しく、第三者機関による審査も無かったため、実用化に至らなかった。 ・平成24年度から大阪府による産地認証制度として、おおさか材認証制度を開始。 ・長期優良住宅や公共施設での拡大を図るためには、品質・性能を保証する制度が求められる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・府内産材の利用を一層促進するため、品質・性能保証等、おおさか材認証制度の拡充を図る。
14	路網整備や高性能林業機械導入による間伐材搬出促進	作業路開設延長	3,219m	2,211m	4,474m	11,400m	15,390m	15,106m	<ul style="list-style-type: none"> ・定額助成事業等の活用により路網整備を実施。 ・モデル地区を設定し、コスト低減の成果を確認する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各地域の実情に合わせて、施業の集約化、路網整備、高性能林業機械の導入をすすめ、効率的な木材生産を行うことで低コスト化を図る。 ・効率的な路網配置・計画的な間伐実施のため、森林経営計画の策定をさらに進めるとともに、森林作業道作設オペレーターや森林施業プランナーなどの人材育成を促進する。
15	森林のカスケード利用の推進	搬出木材量	240m ³	0m ³	120m ³	353m ³	110m ³	22m ³	<ul style="list-style-type: none"> ・林内に放置された間伐材を、森林所有者や地域住民、森林ボランティア等と民間企業が連携して収集・運搬を行い、有効利用する取り組みを実施。 ・買取価格が低い、運搬・収集を行いやすい土場の確保が難しい、森林所有者への制度周知が不十分などの問題があり、地域の実情にあわせた共同収集のシステムが必要。 ・バイオマス発電向けのチップ等、需要は拡大していることから、需要に対する供給体制を整える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・木の駅プロジェクトを推進し、地域の実情に応じ、林地残材を小ロットで収集できる体制をつくる。 ・これにより、これまで自分の山に関心の無かった森林所有者やサラリーマン林家の管理意欲を高め、販売の機会を確保する。
16	おおさか間伐材共同収集の日	進捗状況	H20年度実施に向けて手法を検討	H21.3月に実施を計画していたが実施できず	<ul style="list-style-type: none"> ・府内5箇所を実施 ・総搬出量:120m³ 	<ul style="list-style-type: none"> ・府内2箇所を実施 ・総搬出量:353m³ 	<ul style="list-style-type: none"> ・府内1箇所を実施 ・総搬出量:110m³ 	<ul style="list-style-type: none"> ・府内1箇所を実施 ・総搬出量:22m³ 	<ul style="list-style-type: none"> ・府の発注工事における利用を拡大してきたが、使用後アンケートでは、強度や吸水等によるたわみ等の問題が指摘されている。 ・府内産材のみで、小ロットで生産するため、コストが高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒノキ材の合板向け需要が旺盛であることから、合板用素材の供給は継続するが、製品は府内産材にこだわらず、スギ・カラマツ等とのハイブリッド型の間伐材型枠の利用を検討する。
17	府内産間伐材型枠の利用	使用木材量	4.9m ³ (250枚)	4.5m ³ (230枚)	5.1m ³ (260枚)	15.3m ³ (790枚)	16.1m ³ (830枚)	4.5m ³ (233枚)	<ul style="list-style-type: none"> ・府の発注工事における利用を拡大してきたが、使用後アンケートでは、強度や吸水等によるたわみ等の問題が指摘されている。 ・府内産材のみで、小ロットで生産するため、コストが高くなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒノキ材の合板向け需要が旺盛であることから、合板用素材の供給は継続するが、製品は府内産材にこだわらず、スギ・カラマツ等とのハイブリッド型の間伐材型枠の利用を検討する。
18	大阪府木材利用クラブの立ち上げ	進捗状況	20年2月に設立(参加24社) 認証木材製品登録数 49製品 木づかい認定証交付企業4社	クラブ会員数 26社 認証木材製品登録数 51製品 木づかい認定証交付企業9社(累計)	クラブ会員数 26社 認証木材製品登録数 51製品 木づかい認定証交付企業13社(累計)	クラブ会員数 23社 認証木材製品登録数 44製品 木づかい認定証交付企業13社(累計)	クラブ会員数 20社 認証木材製品登録数 44製品 木づかい認定証交付企業16社(累計)	クラブ会員数 17社 認証木材製品登録 44製品 認定証交付企業 16社(累計)	<ul style="list-style-type: none"> ・10月上旬に水都おおさか森林の市でのPR・展示を実施。 ・木材利用クラブの制度利用が低迷し、会員数も減少している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・住宅向け建材等、認証製品の範囲の拡大を検討。
19	竹資源の有効活用	進捗状況	家具や内装材として利用可能な竹繊維ブロックの開発など	竹に関する研修会の開催	各地域における資材等での活用(農業用、企業ボランティアによる活用等)	ボランティア、企業等の森づくり活動の一環として搬出竹材を利用	ボランティア、企業等の森づくり活動の一環として搬出竹材を利用	ボランティア、企業等の森づくり活動の一環として搬出竹材を竹細工等に利用	<ul style="list-style-type: none"> ・竹の利用方法は様々な検討・開発が行われているものの、需要先や需要量が少ないため、放置竹林対策にはつなげていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・竹林整備活動を実施しているボランティア等と、竹材を必要としている事業者等を結び、利活用の促進を図る。 ・新たな用途の開発や、農業での利用、ビジネスでの利用により、竹材の利用拡大について検討する。